

認知症コラム



認知症の方の家族の話 岸正晴氏 Vol.1



よこすか若年認知症の会タンポポ代表であり、認知症の方の家族でもある岸正晴氏に話を伺いました。

【認知症に気づいたきっかけ】

妻は49歳の時に若年性認知症を発症しました。当時整形外科の病院で医療ヘルパーの仕事をしていたのですが、少しずつ認知症の症状が出ていたようです。同僚から受診を勧められたのが始まりでした。その後、2~3か所の医療機関を回って検査をしましたが、どこも悪くないと言われ続けました。ですがやっぱりおかしいと思い、久里浜医療センターで初めてタウタンパク(認知症の原因物質)を調べてもらおうと、健康な人の7~8倍あると言われたのです。医師には、若年性認知症を発症するに違いないと言われました。私はその場では気丈に振舞っていましたが、ショックのあまり車の中で泣き、あの時は戸惑うばかりでした。

【若年性認知症だと分かってから】

少しずつできないことが増えてきた妻は、知り合いの介護施設でボランティアをしていましたが、それも次第にできなくなっていきます。その頃は毎日、本人にやるべきことの行動表を手渡していました。しかし、ある日妻が買い物に行った時、支払いが分からなくなってしまい、商品を持ったままお店を出てしまったのです。万引きとして扱われ、警察に捕まりました。そのことをきっかけに、私は決意しました。定年前に仕事を辞め、残りの人生は妻と一緒に歩くことを。

【若年認知症の会タンポポ立ち上げ】

慣れない生活の中で支えになったのは認知症の家族会でした。先輩家族に関わり方を一から学び、想いを打ち明けました。しかし、横須賀には若年性認知症の人が集まる場所がなかった。妻と同じアルツハイマー型認知症の人がいると聞いて施設に見学に行っても、周りは80~90歳の高齢の方ばかり。そんな中で49歳の妻がみんなと一緒に活動するのは合わない。認知症になっても何も分からない訳ではないから、「私のいるところじゃない。」となる。

だから、若年性認知症の人が集う場所がなければ作ろうと思い、行政や大学のサポートも受けながら、2014年に“若年認知症の会タンポポ”を立ち上げました。

“若年認知症の会タンポポ”では若年性認知症の本人、家族がボランティアのサポートの中、日頃の思いを語り合ったり情報交換をしています。参加者からは、「つどいに参加すると色々な情報がもらえる。面識がある人が増えると、いざという時に頼れる人が増える。」という声もあり、若年性認知症本人、家族にとって大切な場になっています。

問い合わせ先:健康長寿課 介護予防係 (046-822-8135)